

「ひとつの言葉では括れない」

県立神戸高等学校長
新谷 浩一

○ そんな4日間でした

先月上旬の学年集会。学年主任の財田先生はマイクを通じて79回生の皆さんに語りかけました。「K健康に留意 O思いやりを大切に B勉強ですよ Eいい思い出をつくりましょう」と。そんな修学旅行。

私も葉の冒頭に記しました。『水深が深いほど濃い青色に見えるので、遠浅の沖縄の海の近場はエメラルドブルーで、遠方はコバルトブルーです。海はひとつの色では語れないのです。見る場所や角度、その日の天候により違う顔を見せる海。それは私達と同じかもしれません。皆さんは神戸から飛行機で沖縄に向かいます。いつもと違う場所で友達と行動をともにすると、普段は見られない友達の一面が見えます』と。

そのうえで私は皆さんに思いを託しました。『海はひとつの色ですか？ そして隣にいる友達はどうですか？ ひとつの言葉では括れない問いの答えを見つける、修学旅行はそのような学びをする機会でもあります。快く送り出してくださったご家族への感謝を忘れず、責任ある態度と行動をとることで、思い出と学びの多い修学旅行となることを心から期待しています』と。

果たして「とってもいいな」と思う瞬間がいくつもあり、「ここらあたりがしっかりできるようになればいいのに…」と思う瞬間が時にあるという、まさに成長途上にある79回生の姿そのままの4日間でした。旅行中には、「この場面を書き残したいな」と何度も思ったのですが、いま写真を見ていると私の思いよりも皆さんの表情があまりに雄弁すぎるので、とりあえず今日のところは皆さんの表情に語ってもらいます。



初日、川平湾でグラスボートに乗り、熱帯魚や珊瑚を見た後は海岸遊び。手を繋いで一斉に跳ね上がるシーンって、上手に撮れないものですね。そのあとは玉取崎展望台から海を見下ろしました。



2日目は各自の希望にあわせた体験学習。私は船で黒島に渡りウミガメの放流体験コースに付いてきました。訪問した黒島研究所ではウミガメの保存のために研究調査をしていました。取得したカメの足にタグをつけて海に放流し、その生育状況等を調査しているとのこと。担当の方々は代替わりしながら年間100日の海岸調査を50年間続けておられます。長年、思いを繋いでおられるのですね。



もっとも驚いたのはサイズを計測した後、砂浜で解き放した時でしょうか。ひと月の間、研究所で飼われていた亀ですが、砂浜に運びだすと自身で海の方向を見定め、まっすぐ海に還っていったのです。野生生物の凄みを感じました。





3日目も各自の希望にあわせた体験学習。私は西表島に渡り、マングローブに囲まれた仲間川をクルーズするコースについていきました。午後からは水牛車で油布島に渡っての観光。かつて水没の被害により住民は他所に移住し、観光のための島として生き残った油布島。自然溢れる離島でした。



さて、その3日目の夜です。旅行委員の皆さんが企画・準備してくれた全体レクは有志出演の皆さんのが熱い熱量でとんでもない時間となりました。エネルギーをさんざん見せてもらい、さんざんシャッターを押したのですが私の腕が悪く、よく撮れた瞬間は少なかったですね。だから、ここから先は出演者の技量ではなく、私が運よくそれなりに切り取ることができた瞬間を並べていきますね。



かくして修学旅行は4日目の那覇市内での班別研修をもって幕を閉じました。他にも書きたい話は数多ありますが紙面も尽きましたので、続きは「機会があれば」書かせていただきますね。

最後になりましたが、この旅行に関わってくれた方々に深く感謝するとともに、個人的に往復の行程でクラスバスと一緒に乗せていただいた5組の皆さんに感謝申し上げます。有り難うございました。

